

第4学年国語科学習指導案

日時 平成22年10月5日(火)

児童 4年A組 男子12名女子15名計27名

4年B組 男子12名女子15名計27名

授業者 A組 遠藤 雄史

B組 千田 有美

1 単元名 材料の選び方を考えよう

中核教材 「アップとルーズで伝える」「四年三組から発信します」(光村図書 四年下)

補助教材 岩手日報朝刊、胆江日日朝刊、広報おうしゅう、児童が集めた新聞記事の写真等

2 単元の指導目標

○ テレビや新聞記事などから、相手や目的に応じて、情報の取材や表現方法が異なることに気付き、写真と文章を関係付けて自分の伝えたいことを表現しようとする。(関心・意欲・態度)

○ 発信する目的と相手に応じて、必要なことを調べて集めたり、選んだりすることができる。

(書くことア)

○ 伝えたいことが相手に分かるように、書こうとすることの中心を明確にし、理由や事例、資料を挙げて書くことができる。(書くことウ)

○ 目的や必要に応じて、文章の要点などに注意しながら読み、要約することができる。(読むことエ)

○ 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を明確に理解し、使うことができる。

[伝統的な言語文化を国語の特質に関する事項] (1)イ(ク)

3 単元の評価規準

	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
おおむね満足できる状況	○伝える目的や相手に応じて、情報の材料の選び方や表現方法が異なっていることに気付き、自分が表現していくときに役立てようとしている。	○読んだことを生かして、目的に応じて必要な資料を集めたり、選択したりして書いている。 ○伝えたいことが伝わるよう、適切な事例や資料を挙げて書いている。	○目的や必要に応じて、適切な箇所を引用したり要約したりして、文章や資料を読んでいる。	○指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、自分の表現に適切に使っている。

4 指導にあたって

(1) 児童について

4年生の児童は、「食べ物がかせになろう」(3年)・「新聞記者になろう」(4年)において調べたり取材したりした事柄を伝える学習を行ってきた。また、その手段として「手紙」「ポスター」「紙芝居」「作文」「新聞」などの表現様式を、国語科、生活科、社会科、総合的な学習の時間等において経験してきている。その際、読み手の感想を読んだり互いに作品を交流し合ったりすることにより、児童は活動に対する達成感・充実感を得てきた。このような学習活動を経験することにより、児童は相手に事柄を伝えることに対して大変意欲的である。しかし、今までの学習は主に読み手を意識した情報の発信であり、送り手として集めた情報を意図的に取捨選択し、発信するまでは至っていない。

(2) 単元について

本単元は、「読むこと」領域と「書くこと」領域を関連させた複合単元として設定する。すなわち、説明的な文章を読んで身に付けた情報の取捨選択の重要性と方法を生かし、伝えたい目的や内容に応じて、写真や文・語句を選択したり組み合わせたりして表現する能力を育てる単元として考えたい。なお、本単元は情報を活用する学習内容になっており、特に伝えるための材料（情報）を選択することに焦点化して構成されている。

「読むこと」領域の教材として「アップとルーズで伝える」を活用する。「アップとルーズで伝える」はアップとルーズの手法で撮影したテレビ画像と新聞写真の効果と、制作者の意図を説明した文章である。本教材は児童にとって身近なスポーツ観戦を取り上げている。2枚の画像の対比による内容構成や、特定の情報を「伝えられる」ということは、逆に他の情報は「伝えられない」という具体的な説明により、「受け手が知りたいことは何か、送り手が伝えたいことは何かを考えて、アップでとるかルーズでとるかを決めたり、とったものを選んだりしている」という結論を捉えさせやすくしている。また、巧みに工夫された動詞により、児童は、始めは受け手側の立場でアップとルーズの写真の目的と効果を読み進めるが、6段落以降からは、送り手側の立場になって制作者の意図を読み進めていくという構造になっている。自分も、目的に応じて写真や言葉を使い分けてみたいと思わせる展開になっており、次の活動へつながる内容となっている。

「書くこと」領域の教材では「四年三組から発信します」を活用する。本教材は、「アップとルーズで伝える」を読んで身に付けた情報の取捨選択の重要性と方法を生かせる構成になっている。まず、発信する内容を決め、発信する対象を決め、そして、その内容を効果的に伝えるための活動を提示している。このことによって、児童は情報の送り手として集めた情報を意図的に組み合わせる活動を行うことができるようになっていく。

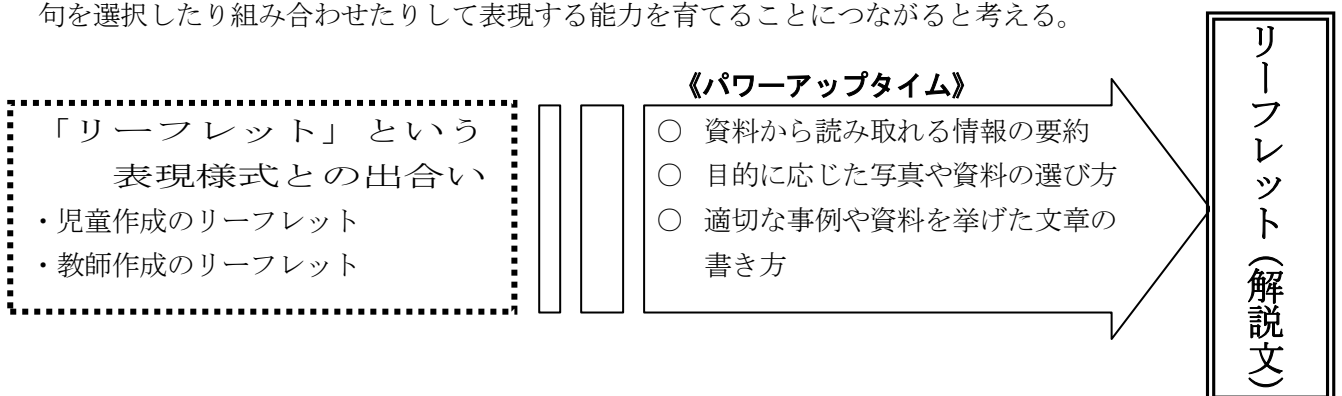
(3) 指導の手立て

本単元は、説明的文章を読んで考えたことを生かして、写真と簡単な解説で構成するリーフレットを作るという複合単元として設定する。そのため、下記の点において、指導の工夫を行う。

単元の導入において、単元全体の目的意識・相手意識を喚起するため、同じ中学校へ進学する稲瀬小学校4年生へ「愛小自慢リーフレット」を作成し、届けること提案する。また、教師作成のリーフレットを提示し、活動の見通しをもたせる。

「読むこと」の学習においては、目的に応じた取材・構成の仕方が実作に生かされるようにすることが大切である。そのために、まず形式段落毎の要点をつかみ、次に意味段落の要点をまとめる。そして、文章全体の要約を目的的に行わせるよう、筆者が用いた4枚の写真の効果に気付くことができるようなワークシートを開発する。

「書くこと」の学習においては、「読むこと」で学習したアップとルーズの効果を考えながら、写真を取り入れた学校自慢のリーフレット作りに取り組みさせる。その際、児童が撮った写真や調べた情報の中から、どの写真や情報を選択することが自分達の意図した目的を効果的に伝えられるか話し合わせたい。話し合いの中で、写真や情報を選択した理由を明確にもつことが、伝えたい目的や内容に応じて、写真や文・語句を選択したり組み合わせたりして表現する能力を育てることにつながると思う。



5 単元の概要

(1) 育てたい力

- ① 目的や必要に応じて、適切な箇所を引用したり要約したりしながら、文章や資料を読む力
- ② 目的に応じて必要な材料を集めたり、選択したりして書く力
- ③ 伝えたいことが伝わるよう、適切な事例や資料を挙げて書く力

(2) 主な学習内容（総時間17時間 うちパワーアップ3時間）

段階	時	学習内容・学習活動	評価	育てたい力
一次	1	稲瀬小学校4年生へ江刺愛宕小学校の自慢として伝える内容や伝える方法について話し合う。	関) リーフレットを作ることに興味をもつことができる。	
	2	教師作成のリーフレットから受け取る印象について話し合う。	関) 感じた印象について積極的に交流しようとしている。	
	3	学習課題を設定し、学習計画を立てる。	関) 言語活動に向かった学習計画を立てようとしている。	
二次	4	教材文「アップとルーズで伝える」を読み取る。 ・「アップ」と「ルーズ」の意味を理解する。	読) 写真と文章の関係を理解し、「アップ」と「ルーズ」の意味を理解することができる。	①
	5	・アップとルーズそれぞれの長所・短所を理解する。 ・アップとルーズが目的に応じて使い分けられていることを理解する。	読) アップとルーズそれぞれの長所・短所が述べられていることを読み取ることができる。 読) アップとルーズが目的に応じて使い分けられていることを読み取ることができる。	
	6	教材文を要約した文章をもとに、写真のキャプションを考える手立てを学ぶ。	読) 要約した文章から写真のキャプションを考えることができる。	
	7	本文を要約した文章をもとに、写真のキャプションを考える。	読) 前時をもとに、要約した文章から写真のキャプションを考えることができる。	①
三次	8	・稲瀬小学校4年生に自慢するテーマについて話し合う。	関) テーマについて自分なりの意見を活発に発言したり、今後の活動の見通しをもったりすることができる。 書) 目的に応じた写真や資料を収集することができる。	②
	9	・取り上げるテーマを決め、グループを決める。		
	10	・グループ毎に調査活動の計画を立てる。 ・グループ毎に調査活動を行う。		
	11			
	12	目的に応じて写真や資料の選択の考え方を学ぶ。(A組本時)	書) 目的に応じて効果的な写真や資料を選択することができる。	②
	13	調査活動で得た資料をもとに解説文の書き方を学ぶ。	書) 目的に応じて、資料をわかりやすくまとめることができる。	③

三 次	14 15	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて写真や資料を選択する。 調査活動で得た資料をもとに解説文の下書きを書く。 (B組本時) 	書) 12時間目の学習をもとに、目的に応じて効果的な写真や資料を選択することができる。 書) 13時間目の学習をもとに、目的に応じて資料をわかりやすくまとめることができる。	② ③
	16	割り付けを工夫しながらリーフレットを作成する。	書) 伝えたいことが伝わるよう、適切な事例や資料を挙げて書くことができる。	③
	17	作成したリーフレットを読み合って相互評価をし、学習のまとめをする。	書) 視点をもとにして、他のリーフレットのよさを見つけることができる。	③

6 本時の指導

(1) パワーアップタイム (12/17) A組

①目 標

伝えたいことが伝わるように、効果的な材料の選び方を理解することができる。

②指導の工夫

本時の目標は目的に応じて効果的な材料の選び方を理解することである。材料とは写真と調査した文章資料のことである。本時の目標を達成させるために、本時では2つの点を工夫した。

1点目は第二次で学習した目的に応じて「アップ」と「ルーズ」を使い分けしていることを振り返りやすい学習掲示を行った点だ。2点目は児童の考えを確かめる資料を作成した点である。その資料をもとに、伝えたいことが伝わる材料の選び方について理解を深めさせたい。

③展 開

段 階	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動	形 態	教 師 の 支 援 (◎特別な支援を必要とする児童への配慮)	評 価
導 入 2 分	1 本時の学習課題をつかむ。 伝えたいことが伝わる材料の選び方について考えよう。	全	<ul style="list-style-type: none"> ○学習計画表から、本時の学習内容を確認する。 ○材料には写真と調査した資料があることを確認する。 	
展 開	2 教師が作成したいリーフレットに合う写真を考え、考えたことを交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リーフレットで何を伝えたいのか(目的)を確認する。 ・ 教師が作成したいリーフレットに合う写真を考える。 ・ グループで考えを交流し合い、相違点について話し合う。 ・ グループで交流したことを全体で確認し、どのように写真を選べばいいか話し合う。 	全 個 グ 全	<ul style="list-style-type: none"> ○リーフレットの内容は学校近くにある「水辺の楽校」にする。 ○写真はアップとルーズのものを数枚ずつ用意し、児童に選ばせる。その際、選んだ根拠をはっきりさせるよう伝える。 ○写真だけでなく選んだ根拠も交流するよう伝える。 ○考えの交流と写真を選んだ視点の類型化を行いたい。 ○自分の考えの根拠をはっきりさせたうえで、話し合いを行い 	

展 開	3	奥州市役所制作企画課広聴広報係の人の話をもとに、写真を選ぶ視点について考え、話し合う。	全	たい。 ○奥州市役所制作企画課広聴広報係の人の話が解答にならないよう配慮する。	
		・ VTRによる奥州市役所制作企画課広聴広報係の人の話をもとに、写真の選び方について考え、話し合う。	全	○話から写真選択の視点を抽出する。 ○抽出した視点をもとに、児童達を選んだ写真を評価することで、さらなる定着を図りたい。 ○視点を児童の言葉で表現させたい。	
	3 4 分	4 学習したことをもとに、目的に合った文章資料を選ぶ。	個	○資料は目的に合うものを用意し、児童に選ばせる。その際、選んだ根拠をはっきりさせるよう伝える。	B 選択する視点をもとに、資料を選ぶことができる。 (学習シート)
		・ 目的に合った文章資料を選択する。 ・ グループで考えを交流し合い、相違点について話し合う。 ・ グループで交流したことを全体で確認し、どのように資料を選べばいいか話し合う。	グ 全	○資料だけでなく選んだ根拠も交流するよう伝える。 ○資料においても写真選択の視点が同様に活用できることに気づかせたい。	Aと判断される例 資料を発信する側の視点だけではなく、受け手の視点も加味し資料を選択している。(学習シート)
終 末 9 分	5 本時の学習を振り返る。	全			
	・ 本時の学習をまとめる。				
	まとめ 材料を選ぶ時は、自分が一番伝えたい内容が伝わるものを選ぶ。				
	・ 本時の学習をふりかえる。		○本時で学習した選択の視点についても入れながら、学習の振り返りを行わせたい。		
	6 次時の学習の確認				

④板書計画

まとめ 材料を選ぶ時は、自分が一番伝えたい内容が伝わるものを選ぶ。

目的①
奥州市役所制作企画課広聴広報係の人の話をもとに、写真を選ぶ視点について考え、話し合う。

鈴木さんの写真

ルース

写真 写真 写真

川の様子 飛び石はたくさん 全体

アップ

写真 写真 写真

楽しい顔 細かい部分 表情

目的②
飛び石をわたれることを伝えたい

材料を選ぶポイント

課題 伝えたいことが伝わる材料の選び方について考えよう。

(2) パワーアップタイムを生かして (14/17) B組

①目 標

- ・伝えたいことが伝わるように、効果的な写真や資料を選択することができる。
- ・調査活動した資料をもとに、解説文の下書きを書くことができる。

②指導の工夫

前時で学習したことが、すぐに振り返られるように掲示をし、考えたり、話し合ったりする時間を保障する。つまづきが見られたときは、一斉指導として前時を振り返ったり、ペアやグループ学習で資料を選ぶポイントを確かめたりさせる。

学習シートは、児童自身で活動を進められるようガイドをつけるなどの手立てをとる。

③展 開

段階	学習内容・学習活動	形態	教師の支援 (◎特別な支援を必要とする児童への配慮)	評 価
導入 5分	1 本時の学習課題をつかむ。 「愛小自まんリーフレット」で使うし料を選び、下書きを書こう。	全	○学習計画表から、本時の学習内容を確認する。 ○前時の簡単な振り返りをする。	
展 開	2 複数の写真から、自分の伝えたいことを表している写真を選ぶ。 ・伝えたいことを再確認して、目的意識をもつ。 ・目的にあった写真を3～5枚に絞る。 ・さらに、1枚に絞る。(選んだ理由を書き、その資料によって伝えたいことが伝わるかを考える。) ・グループごとに、選択理由を交流し合い、友達の意見も考慮した上で、資料を決定する。 ・話し合いの結果を全体で交流し合う。 3 解説文を書く ・前時の学習で学んだことを簡単に振り返る。 ・調査して得た資料から、「伝えたいこと」が伝わる内容はどれか考慮し、選材する。 ・選んだ資料を、解説文の書き方のポイントに沿って書き進める。 条件 ア：2項目 イ：1項目につき 90～120字 ・1つ目の解説文の下書きが終わ	個 グ 全 全 個	○伝えたいこと(目的)を明確にもたせる。 ○送り手(自分)の思いをしっかりともち、それに加えて相手の思いも考えるようにさせる。 ◎事前に、どの資料にするかを個別指導して3枚程度に絞っておき、本時ではそこから1枚に絞らせる。 ○選択した根拠を話すことで、もう一度考えさせる。また、相手意識ももたせたい。 ○1つ目の解説文は、全員で取り組みたい。次時も、下書きの時間としているので、1つ目の解説文に取りかかる程度でよしとする。 ○活動の進度に個人差があるので、1つ目が終わった児童にはチェックシートを活用し、確認項目を挙げ、推敲をさせる。 ○記事の下書きを2名程度紹介し、次時への学習意欲へとつなげたい。	B 伝えたいことを意識して資料(写真)を選ぶことができる。(学習シート) Aと判断される例 友達の伝えたいことを受け取り、感想やアドバイスを話すことができる。 (観察・発表)
35				

分	つたら、チェックシートで落ちなく、正しく書けているかを確認し、推敲する。			
終 末 5 分	4 本時の学習の振り返り ・本時の学習で分かったこと、考えたことを感想にまとめる。 5 次時の学習の確認	個 全	○自由発表でたくさんの児童に発表させる。 ○学習計画表から、次時の学習内容を確認する。	

④板書計画

二
材料の選び方を考えよう

し料を選び、下書きを書こう。

し料を選ぶときに考えること

し料を選んだ理由

青い目の人形

・洋服が、変わることを教えたいから、人形全体が移っている写真
・岩谷堂タンスのお部屋にしていることを伝えたいから、ケースに入っている写真
など

かい説文を書くポイント

かい説文を書くしようけん
・二つの内よう
・一つの内ようで九十〜百二十字